

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 6 年 4 月 1 日

事業所名 放課後等デイサービスことり公園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動ごと(運動、静養、創作等)に合わせて部屋やスペースを分けている	
	2	職員の配置数は適切である	○		送迎や利用予定人数によって職員配置を調整している	人員の確保を随時行っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	ふらつきがある場合など段差等危険がある場所では職員が必ず付き添うようにしている。	利用児童の特性に合わせて、必要箇所に手すりを取り付ける。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員同士が目標等が一目で見てわかるようにシートを作るなどしてより理解を深め共有していく	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		HPIに公開している	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPIに公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		必要に応じて外部評価を検討 連絡会等を通じて、より多くの視点から事業所を評価いただけるように働きかけていく。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		市や連絡会の研修も活用して、研修を実施		
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメント時には他の関係機関の資料等も含め、計画を作成している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			子どもの状況や必要に応じてアセスメントツールの変更も検討していく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎月職員間で話し合いプログラムを決めている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		ご利用の子どもごとの状況に合わせて同じものでも少しづつ変化を加えている	改めて5領域の支援を含めて、プログラムが固定化しないように支援内容を検討していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		支援時間に応じて、課題を設定していく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別で行う支援と同じ課題に取り組めるグループ活動を分けて行っている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		場面を想定し、児童の不穏時の配置など普段からある程度決めて支援を行う	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返り等は業務日誌に記録するなどしている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		職員間で話し合い、記録の情報がより正確になるようにしていく	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		事前に保護者に聞き取りしやすい日を決めてモニタリングを行っている		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		活動プログラム等が一つの領域に偏らない様にしている		

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		主に児童発達支援管理責任者が参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		毎月学校の行事予定を確認したり、事業所側から保護者向けに利用のカレンダーを配布している	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在医療ケアが必要な子どもを受け入れている状況はないが、受け入れの際は連絡体制を整え支援にあたる
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		保護者様からの情報やご提供いただいたこれまでの資料等で不明な点や聞き取りが必要と感じた場合は積極的に情報共有を行うようにする
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			相談支援事業所や保護者様を通じて情報を提供する
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		市や事業者連絡会等の研修会を活用している	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		お要望に応じて交流の機会を作っていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		事業者連絡会等に積極的に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳などのツール以外にも送迎時やお電話等でお時間があれば状況をお伝えしていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		令和6年度までに保護者向けのペアレント・トレーニングの支援を行う	
保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		面談時等に書面で行う様になっている	変更等が生じた場合は、文書や改めて不明点がないかを聞き取りするようにする
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳やモニタリング時にご相談いただくようにしている	普段からも気軽に話していただけるように職員からもお困りごとなどないかお声掛けをしていく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	ペアレント・トレーニングでも保護者同士の連携を支援していく	お要望に応じて交流の機会を作る
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		自社マニュアルを日頃目につく箇所に設置している	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報で伝わりにくい内容などは改めて別紙文書や口頭でお伝えする様にする	
	35	個人情報に十分注意している	○			子どもの利用中も個人情報に気を配る
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚支援ツールの活用。情報伝達はなるべく書面等で残るようにおこなっている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		人員や安全面等の配慮の上、可能であれば検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	ご契約時、しおり等で周知を行っている。	面談時等に改めて周知を行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月火事、地震などを想定して避難訓練をおこなっている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		市の事業所連絡会等の研修を活用している	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		やむを得ず行う必要がある場合に備えて必要書類を準備しておく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	保護者よりアセスメント時に確認を取っている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		職員の目の付きやすいところに設置している	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。